

新病院初のヘリコプター患者搬送訓練を実施しました

令和7年6月30日、琉球大学病院において、屋上ヘリポートを使用した患者搬送訓練が実施されました。今回の訓練は、沖縄県ドクターヘリの受け入れ体制を確認し、関係職員の連携強化および実務対応力の向上を目的として行われたものです。新病院への移転後、初めての本格的な搬送訓練となります。

当日は天候にも恵まれ、ドクターヘリの着陸から患者役の搬送、救命救急センターへの引き渡しまで、円滑に進行しました。訓練には、ヘリ運航関係者、救命救急センター医師・看護師、警備担当、施設保全課など、多職種が連携して参加し、各工程の確認と改善点の洗い出しが行われました。

新病院では、屋上に設置されたヘリポートと救命救急センターが専用エレベーターで直結しており、搬送時間を大幅に短縮することが可能となっています。これにより、重症患者の受け入れ・初期対応がより迅速に行える体制が整いました。大学病院としての三次救急機能を強化し、離島や遠隔地からの重症患者搬送にも対応できる基幹病院としての役割が一層高まっています。

今後も定期的な訓練を通じて、災害医療や広域搬送にも対応可能な体制を維持・発展させ、地域の医療ニーズに的確に応えてまいります。



ドクターヘリへ（模擬）患者受け入れに向かう救命救急センタースタッフ



病院へ模擬患者を運ぶ様子



参加スタッフで行程の確認